

女子第34回全国高等学校 駅伝競走大会報告

健 律 愛



令和5年3月

秋田県立大曲高等学校
全国高等学校駅伝競走大会選手派遣実行委員会

ごあいさつ

秋田県立大曲高等学校
全国高等学校駅伝競走大会選手派遣実行委員会

委員長(陸上競技部親の会会長) 菅原靖敬
青麻会会長 鈴木松右衛門
P T A 会長 笠原基嗣
陸上競技部OB会会長 大川寿孝
校長 伊藤成孝

日差しのうららかに春の到来の喜びを感じております。皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

このたび、本校陸上競技部女子駅伝チームが2年連続8回目の全国大会出場の切符を手にし、昨年12月25日に京都市において開催されました女子第34回全国高等学校駅伝競走大会に出場いたしました。

この全国大会出場に際しまして、数多くに皆様から、多大なご芳志とご支援ご声援を賜りましたことに、青麻会、P T A、陸上競技部OB会、学校、陸上競技部親の会など関係者一同、心より厚く御礼申し上げます。

皆様のご支援が選手の後押しとなり、サポートする生徒とも一丸となって精一杯のパフォーマンスを見せてくれました。残念ながら、目標順位、目標タイムともに上回ることができませんでしたが、大曲高校らしい粘り強い走りで襷を繋げることができました。

募金をお寄せくださいました収支につきましては、本紙記載のとおりでありますので、ご高配賜りますようご報告申し上げます。

なお、ご芳名簿と金額につきましては、個人情報保護のため掲載しないことをご了承ください。また、頂戴いたしました募金残金につきましては駅伝寄付金管理委員会の管理下において、今後の本校陸上競技部の強化費に充てさせていただきたいと存じますので、あらかじめご了承くださいようお願い申し上げます。

現在、3年生の3人が抜け、新チームとなって始動しております。春には新入生も加わることで、3年連続で都大路で躍動する選手の姿が見られることを期待しているところであります。

皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご声援を賜りますようお願い申し上げますとともに、これまで賜りましたご厚情に、一同重ねて厚くお礼申し上げます。

女子第34回全国高等学校駅伝競走大会派遣費

収入総額 4,675,950円
支出総額 4,028,238円
差引 647,712円

収入の部

(単位円)

項目	予算額	決算額	比較増減	摘要
寄付金	5,000,000	3,943,500	△1,056,500	1,808件
雑収入	0	22,560	22,560	日本陸連交付金、預金利息(10円)
繰入金	700,000	709,890	9,890	大曲高校PTA拠出金他
合計	5,700,000	4,675,950	△1,024,050	

支出の部

(単位円)

項目	予算額	決算額	比較増減	摘要
選手等派遣補助	4,000,000	3,044,400	△955,600	仙台合宿、日体大記録会、本大会他
用具費	500,000	573,554	73,554	ウェア他選手用具
事務費	950,000	234,539	△715,461	芳名簿作成、郵送料他
報告費	80,000	79,200	△800	大会出場報告書
広告費	120,000	88,220	△31,780	秋田魁新報社、秋田毎日広告社
雑費	50,000	8,325	△41,675	ゆうちょ銀行寄付金取扱手数料
合計	5,700,000	4,028,238	△1,671,762	

決算残余金については、秋田県立大曲高等学校陸上競技部女子駅伝チーム強化基金管理委員会に繰入し、年次計画の下に、選手強化に充てさせていただきますので、ご理解賜りますよう、よろしく申し上げます。

女子第34回全国高等学校駅伝競走大会

期 日 2022年12月25日(日)

コース たけびしスタジアム京都をスタート、フィニッシュとする
たけびしスタジアム京都付設駅伝コース(女子全国高校駅伝コース)

女 子 21.0975km 5区間

第1区 6km(たけびしスタジアム京都～衣笠校前)

第2区 4.0975km(衣笠校前～烏丸鞍馬口)

第3区 3km(烏丸鞍馬口～室町小学校前折返し～北大路船岡山)

第4区 3km(北大路船岡山～西大路下立売)

第5区 5km(西大路下立売～たけびしスタジアム京都)

記録 44位 1時間16分29秒

第1区	菅原 苺波	②	区間35位	21'24
第2区	鈴木 彩花	①	区間44位	14'56
第3区	柏谷 星来	③	区間46位	11'15
第4区	田口 楠々瑚	③	区間41位	10'27
第5区	清水川 藍	②	区間45位	18'27

女子第34回全国高校駅伝競走大会出場にあたって

大曲高等学校陸上競技部駅伝チーム監督 小澤 裕子

平成元年からスタートした女子全国高等学校駅伝競走大会は第34回を迎え、駅伝発祥の地である京都にて12月25日に開催されました。本校陸上競技部駅伝チームは2年連続8回目の出場となりましたが、出場するにあたり、たくさんの方々からご支援ご協力を賜りましたことに深く感謝申し上げます。

今年度のチームは、前回出場したメンバーが大幅に入れ替わり新たな挑戦でした。年度当初、コロナ禍の影響から部活動自粛期間が続き、継続的な練習が積めないままシーズンを迎えたこともあり、故障者が多い厳しいスタートでした。しかし、選手たちは全国大会を目指し、限られた時間の中で日々の練習に励んできました。3年ぶりに行った夏合宿では、初めてのことばかりで戸惑いながらも着実な力をつけ、練習後の達成感を共有しました。そして、10月の秋田県予選会を優勝し、待ちに待った12月の全国駅伝。全員が精一杯頑張った結果でしたが、目標記録、目標順位ともに達成できず、夢舞台は一瞬で幕が閉じました。

長年、陸上競技に携わってきましたが、特に駅伝は周囲の反響が大きく、世代を超えた多くの方々のご縁を改めて実感します。年々広がる輪は、本校を卒業された方々、地域の方々、さらには全国へと広がり、その激励の一つひとつが心強く、襷の繋がりや重さを年々感じております。また、温かいご支援は選手たちの背中を後押ししてくれます。今大会も、そんな見えない襷も一緒に運ぶレースを心がけましたが、描いていた内容とはなりませんでしたが、しかし、たくさんの方々のことを学び、これからの課題を再確認し、次こそ達成感のあるゴールを実現したいと思います。

結びになりますが、日頃から本校陸上競技部にご理解とご協力、ご支援を賜り、改めて感謝申し上げます。この貴重な経験を忘れず、選手とともに精進し、始動したいと思います。本当にありがとうございます。



駅伝チーム主将 4区 柏谷 星来

私たちが全国高校駅伝競走大会に出場するにあたり、たくさんのご支援とご声援をいただき、本当にありがとうございました。秋田県予選会で優勝することができ、全国大会出場を決めた直後から、周囲の方々からいただく温かい激励は、大きな力になりました。

今大会は、個人としてもチームとしても最後の駅伝だったこともあり、この一年、そしてこれまでの三年間を振り返ると感慨深かったです。一緒に励まし合った仲間感謝、ご指導くださった先生方にも感謝、そして家族や応援してくださる方々にも感謝。そんなたくさんの感謝の気持ちを襷に込めて、走りて恩返しをしたいと、我慢の練習を継続してきました。大会では、全員が力を出し切りましたが、4、4位という大変悔しい結果でした。楽しみだった全国大会は、全国との差を改めて感じ、課題もたくさん残りました。この悔しい気持ちを忘れず、後輩たちは、この後見えない襷を繋いでくれることと思います。来年は、もっとレベルアップを図り、チームとして再チャレンジしたいと思います。

今後とも大曲高等学校陸上競技部にご支援とご声援の程、よろしくお祈りします。

1区 菅原 苺波 (2年)

2年連続の都大路、そして2回目の一区を走りました。張り詰めた独特の雰囲気は昨年と変わりませんでしたが、落ち着いてスタートすることができました。スタート直後からハイペースでした。特に、ラスト1、5キロの上りは苦しかったです。しかし、今まで一緒に頑張ってきた仲間のことを思うと、最後まで頑張ることができました。また、沿道から聞こえた応援も力になりました。

区間順位は昨年よりも上がったものの、タイムはあまり更新できず悔しいレースでした。全国とのレベルの差を感じ課題も見つかったと同時に、全国で戦う意識をもって練習に励みたいと思いました。

たくさんのご声援、本当にありがとうございました。

2区 鈴木 彩花 (1年)

全国大会は、初めての経験でした。2区は、アッダウンのブ激しいコースで、各校強い選手が集結していました。先生と話したレースプランを描いてスタートしましたが、思うような走りができないまま、目標にも届かず、厳しい結果となりました。この経験を通し、新たな課題も見つけることができました。来年につなげられるよう、また頑張りたいと思います。たくさんのご支援とご声援をいただき、本当にありがとうございました。

3区 田口 楠々瑚 (3年)

陸上競技部に入部した時から、都大路は憧れの場所でした。今回が、最後のレースになることを考えるといろいろな想いがこみ上げてきました。三年目にやっと掴み取った選手だったこともあり、スタート前は、緊張感の中にも走れる喜びを感じました。苦しいレースでしたが、沿道からは、途切れることのない声援や拍手は忘れられません。

たくさんのご支援、ご声援をいただき貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

5区 清水川 藍 (2年)

5区は下りが多いコースですが、距離が長く我慢が必要な区間でした。留学生選手を多くみられ重要な区間であることがわかりました。県予選前からの故障も長引いたこともあり緊張しましたが、覚悟を決め、挑んだレース。今の力を全て出し切りましたが、目標タイムに届かず、悔しい結果でした。ここから、次に向けて一歩前進したいと思います。

今回出場するにあたり、みなさんのご協力があったことを改めて知りました。出場できたことに感謝し、みなで力を磨いていきたいです。ありがとうございました。



3年 田村 翠姫

みんなが都大路で頑張る姿に涙が出てきました。選手たちの力走が嬉しかったと同時に、走れなかったという後悔が残る涙でもありました。本当は、いつも支えてくれている家族に自分が走る姿を見せたかったのです。選手から外れたことを知り、心を整理するのが大変でしたが、少しでもチームに貢献したいと気持ちを切り替え京都入りしました。苦しいこともたくさんありましたが、こうして競技を続けてこれたことは、たくさんの支えがあったからです。本当にありがとうございました。



もっともっと強くなりたいと思います。気持ちを引き締めて前に進みたいと思います。たくさんのご声援、ありがとうございました。

2年 斎藤 叶果

昨年に続き、都大路に戻ることができました。駅伝は、見える襷と見えない襷の二本あると先生は話されます。私は、今回選手になれませんでした。私以外にもたくさんの方々が見えない襷を運んでくださっていることを改めて知りました。レースは、全国レベルの違いを見せつけられ、悔しく思います。自分たちに足りない部分を再確認し、学び多い大会でした。この後、新たな目標を掲げ、頑張っていきたいと思います。

多くのご声援、ご支援、本当にありがとうございました。

1年 本間 翔子

今大会は、選手として走ることはできませんでした。都大路は、入学当初から憧れていた舞台だったこともあり、走れなかったことはとても悔しかったです。選手の頑張る姿を見て、来年こそ京都でリベンジしたいと決めました。自分には、まだまだ足りないことがたくさんあるのでそれを埋めていけるよう、日々の過程を大切にしていきたいです。

出場したことで、たくさんのご声援をいただきありがとうございました。

2年 菅原 陽莉

都大路出場が決まってから、たくさんの方々から心温かいご声援やお言葉、さらにはご寄付をいただき、感謝することが多くありました。私は、選手になれませんでした。他チームの選手たち表情やアップする様子などから、レースにかける想いや気迫を強く感じました。

今回この舞台を経験し、自分たちの未熟さを痛感した分、今度は感謝の心と走りて恩返しできるよう頑張っていきたいと思います。

1年 細井 杏桜

選手として出場できなかった今大会。この日を目指し一年間取り組んできたので、正直悔しかったです。しかし、みんなと一つ一つ乗り越え、私自身も少しずつ成長してきました。また、全国大会出場したことで、経験できたことも多くありました。都大路は、夢から目標の場になり、今度は自分がチームに貢献できるように頑張りたいです。たくさんのご声援、本当にありがとうございました。

1年 鈴木 来都

最終オーダーで自分の名前が呼ばれず、悔しくてたまりませんでした。しかし、いつでも走れる準備をして当日を迎えました。今回、全国トップレベルの走りを見て、自分の力のなさや努力がまだまだ足りないことを改めて実感しています。ここが、新たなスタートだと思い、

2年 主務 嗟峨 綾音

1年生は初めて経験する全国の舞台、2年生は昨年の経験を活かせる場所、そして3年生は集大成となる大会。選手たちは、いろいろな想いを襷に込めゴールを目指しました。しかし、目標の1時間14分には届きませんでした。マネージャーとしてもっと出来たことはなかったかな…と悔やみました。今回の結果を真摯に受け止め、日常生活や練習に対する姿勢を見直し、再度この場所で成長した姿を表現できるように頑張りたいです。みなさんからのご声援、大変心強かったです。ありがとうございました。





健 律 愛

(つよく ただしく ゆたかに)



皆様の多大なご芳志とご支援ご声援
ありがとうございました。

女子駅伝チーム 一同
選手派遣実行委員会